

綱 領

- われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
- われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
- われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。



平成24年
3月15日
発行
第216号

発行所
日本赤十字新労働組合連合会
(日赤新労)
東京都港区浜松町2-6-8伸和ビル1F
TEL (03) 3433-3028
FAX (03) 3432-4560
Eメール shinro@shinro.org
ホームページ http://www.shinro.org/
発行責任者 山本 俊一



第51回定期全国大会開催

—基本賃金引上げ3.0%に決定—

二月十九日から二十一日の三日間、静岡県伊東市「伊東ホテル」において、全国加盟単組より代議員及びオブザーバー等九〇名を超える参加のもと、第五一回定期全国大会が開催された。

会議では、平成二十四年度運動方針案や要求書案のほか、初任給標準格付基準等について慎重な審議が行われ、新執行体制のもと、本年度も要求獲得に向けて力強く前進していくことを確認した。

初日の十九日は、開会のことばの後、出席者全員による日赤新労労働歌斉唱が行われ、資格審査・成立確認を経て、大会役員及び議長団が選出された。議長には柏谷幸司氏(愛知血七)、副議長は大淵賢一氏(鳥取日赤)、書記に金沢丈夫氏(千葉血七)。

次いで、秋友中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「今年度の活動は、三月十一日の東日本大震災の影響で本社との交渉もなかなか開催できず、本部としてはもどかしい思いの一年だったが、大きな変革の年でもあった。

また、血液センターに勤務される方々には、プロック体制への移行や血漿分画事業の統合が間近に進められているにもかかわらず、なかなか情報を提供できない状況があるが、今後もこの件に関する問題点については、各単組と連絡を密に図って、本社と協議していきたい。

日本経済はリーマンショック以降、上向きはしたが、東日本大震災の影響もあって、三十一年度の貿易赤字になるなど、先行きは不透明な状況である。このような中においても、日赤新労はより良い職場環境づくりを目指し、邁進していかねばならない。今大会では皆さんと共に熱く語り、次年度の運動方針並びに日赤新労のあり方を真剣に議論していきたいと思う。」

報告事項に入り、各部報告として組織・教宣・調査の各部長より一年間の活動報告が行われたほか、週休二日制推進委員会報告として、印南副執行委員長より未実施施設における交渉の進捗状況が報告された。

また、山本中央書記長から報告資料にまつて一般経過報告がなされ、六年制卒の薬剤師の処遇についてフロアから質問が出されたが、審議事項の議題の中で協議していくこととした。

技師(士)長職の対象の拡大については、引き続き強力に交渉してほしいとの要望が出された。

続いて、佐久間中央会計より平成二十三年度会計収支決算報告が行われ、会計監査委員からは適正且つ正確に処理されている旨報告がなされた。

単組活動報告において、各単組代表者から資料に基づき補足説明を加えて、施設交渉やレク活動等の報告が行われ、賛成多数で承認された。

大会二日目は審議事項から始まり、議題である平成二十四年度運動方針案や要求書案、予算案のほか、初任給標準格付基準等について慎重な審議が行われた。最終日には平成二十四年度本部役員選挙が行われ、役員詮衡委員会が詮衡された十名が新役員として信任、決定された。

最後に、今津赤十字病院の樋口良子氏により、力強い「三唱」が行われ、盛会の「伊東大会宣言」が読み上げられ、秋友中央執行委了した。



伊東大会宣言

日本赤十字新労働組合連合会は、第五一回定期全国大会を、花と海といで湯の町、静岡県伊東市「ホテル」において盛大に開催した。

私たちは平成二十四年度運動方針として、

- 実質賃金を獲得し豊かでゆとりある生活
- 労働時間短縮と完全週休二日制の実施
- 教宣活動を強化し組織の団結と活性化
- 勤務評定の完全実施と人材育成

日本赤十字新労働組合連合会は、第五一回定期全国大会を、花と海といで湯の町、静岡県伊東市「ホテル」において盛大に開催した。

私たちは平成二十四年度運動方針として、

- 実質賃金を獲得し豊かでゆとりある生活
- 労働時間短縮と完全週休二日制の実施
- 教宣活動を強化し組織の団結と活性化
- 勤務評定の完全実施と人材育成

〇定年年齢の引上げと老後保障の充実

〇福利厚生充実と活力ある職場環境

以上の六項目をスローガンに掲げ、年々厳しさを増す医療環境の中、日赤新労の理念を基調とし、全組合員協力のもと、要求貫徹に向けて力強く前進することを誓います。

右伊東大会宣言とします。

平成二十四年二月二十一日
今津赤十字病院職員組合
樋口 良子

初任給標準格付基準等 慎重審議行われる

報告事項

- 一、各部報告
- 二、一般経過報告
- 三、会計収支決算報告
- 四、会計監査報告
- 五、単組活動報告

審議事項

- 一、平成二十四年度運動方針案について
- 二、要求書案について
- 三、スローガン及び闘争方針案について
- 四、予算案について
- 五、本部役員について
- 六、その他

〇プロック看護部会の助成金について

本部提案の内規(案)が原案どおり決定された。プロック看護部会に出席した組合員一人につき、二千五百円を補助金として支出する。但し、各単組二人までとし、補助する回数は年一回とする。

〇組合例規集について

注文部数の関係で単価が相当高くなることから、自前の発行は行わず、今年度も日本赤十字社例規集のCD-R版で対応することとした。

〇宿泊施設の利用について

宿泊施設の割引利用として、本部よりソラレグール(チサンホテル)の紹介があった。

〇初任給標準格付基準等の改正について

二月十五日に本社から提案のあった改正内容について審議が行われ、特に六年制卒の薬剤師への対応に

第1回中央委員会
平成24年5月13日(日)~14日(月)
東京都港区芝浦1-3-10
「チサンホテル浜松町」

平成二十四年度
全国会議開催予定

- 〇第一回中央委員会 五月十三日~十四日
- 〇単組新任役員研修会 六月二十三日~二十四日
- 〇第二回中央委員会 九月九日~十日
- 〇病院看護部会 十月二十七日
- 〇第三回中央委員会 十二月八日~九日
- 〇第五二回定期全国大会 平成二十五年 二月二十四日~二十六日

平成24年度本部役員

- 中央執行委員長 **秋友 信男** (岡山日赤)
- 中央副執行委員長 **内海 和彦** (石巻日赤)
- 中央副執行委員長 **伊藤 高敬** (愛知血七)
- 中央書記長 **山本 俊一** (鳥取日赤)
- 中央会計 **佐久間直紀** (千葉血七)



- 中央執行委員 **大月 肇** (飯山日赤)
- 中央執行委員 **小室 勝彦** (秦野日赤)
- 中央執行委員 **高橋 直樹** (新潟血七)
- 会計監査委員 **三浦 勝紀** (大津日赤)
- 会計監査委員 **川上 知子** (嘉麻日赤)

就任にあたって

中央執行委員長 **秋友 信男**

第五一回定期全国大会の役員改選において、昨年に引き続き中央執行委員長に選出され、ご承認をいただきました。

昨年、山田前中央執行委員長、渡辺前中央書記長の退任により、秋友・山本の新体制となりましたが、慣れない本社交渉や東日本大震災による異様な状況が続く中、各単組役員の皆様のお力添えを頂き、何とか務めることができました。

今年度は印南前副執行委員長と一條前中央委員が退任されましたが、新たに高橋中央執行委員と小室中央執行委員を迎え、気持ちも新たに頑張っていきたいと思っております。

血液事業においては、ブロックセンター化や血漿分画

退任挨拶

大田原赤十字病院 **印南 新一**

この度、勤務の都合上、次年度の組合活動が困難な状況となり、退任させて頂きました。

二年間という短い期間でしたが大変貴重な経験をさせて頂き、昨年の結成50周年記念行事に役員として携われたことや筆頭組合になったことは、良い思い出となりました。

週休二日制推進委員会においては、志半ばで辞めてしまつたこととなり、大変心苦しく申し訳なく思い、関係単組の皆様には深くお詫の申し上げます。

最後に、組合員皆様のご支援とご協力があつたかご指導、ご鞭撻をお願い致しますとともに、各単組の益々のご発展を祈念して、心より深く感謝申し上げます。私もこれから一組合員として微力ながら応援して参ります。



足利日赤職組 結成60周年を祝う

足利赤十字病院職員組合

足利赤十字病院職員組合の表彰が行われるなど、敵は一九四九年に結成され、肅な中に終了致しました。

一九六一年に日赤新労に加盟しました。この度、節目となる職員組合結成六〇周年相談役による乾杯の音頭で年並びに日赤新労加盟五〇周年を迎えることとなり、まね芸人のおかもとまりさんと神奈月さんのショーが催されました。ショーの途中では、組合員と神奈月さんが対戦するというアドリブもあるなど大いに盛り上がり、お二人の芸人さんには抽選会や記念撮影にも参加して頂きました。

記念式典は当単組の五十嵐康典組合長の挨拶の後、ありましたが、諸先輩方と様々な話をする機会を得たことは、これからの組合加として頂きました。



活動にとって貴重な財産に達しない点が多々ある若なることでしょうか。また、い執行部ですが、今後七十の年、八十と職員組合が発と執行委員が協力し、一つ展していくために、微力なし、誠にありがたうございました。

ご来賓の皆様にはご多忙の中ご出席を頂き、また多くのご祝電やお祝いを頂戴し、誠にありがたうございました。

(副組合長 新井 宏幸)



乾杯発声で挨拶に立つ西村和典氏

し、山猫ストも取り入れ、保安要員規定も梨の礎でした。従って、給食の配膳を手伝った事もありました。先輩方に叱られながらも、全日赤の若い職員と、「病院がつぶれるのか」とよく議論を交わしたものでした。当時より「新労を一本化!!!」と大きな夢を追いつつ、オルグ活動を展開していたわけです。

私は新労の持つ『労使協調路線』という言葉がすごく好きで、ずっと大事にしていかなくてはと思っています。

大津日赤での全日赤の強さが、そのまま4ブロック近畿圏に引き継がれていったのが今日の現状であり、大津日赤新労が首の皮一枚にて、日赤新労の4ブロックを守ってきたと言っても過言ではありません。こういった思いもあって、見苦しい顔を中央委員会や定期大会での壇上にてさらけ出し、組合員の皆さんの不快感をかりたてた事、申し訳なく思っております。

一昨年、日赤新労の組合員数が全日赤を抜いて筆頭になったとの発表を聞いたときは、皆様同様、私自身も大変喜ばしく感じ、心踊る思いでした。

全国の仲間と年4回の会議の時には議論を交えて、仲間の仕事内容をつぶさに

日赤新労に感謝!!

大津赤十字病院新労働組合 **西村 和典**

今回、この紙面の場を与えて頂き、有り難うございます。

私もこの3月に定年を迎えますが、赤十字病院を去る寂しさよりも新労を去る寂しさの方が、正直辛く感じられます。

入職して試用い過ぎると同時に当組合に入りました。当時、大津日赤は全日赤と新労とが拮抗しており、別に組合同士が喧嘩をしているわけではありませんでした。入会勧誘が熾烈極まりのない状態でした。当時から不思議に思っていたのは、「何故労働組合が同じ病院に二つ存在するのか?」ということでした。二つより一つの方が力強いからです。しかし、ボーナス闘争で初めてその理由がわかりました。すなわち、目的達成のために、他組合は手段を選ばない方策をとる手法でした。ストは日常茶飯事でした